

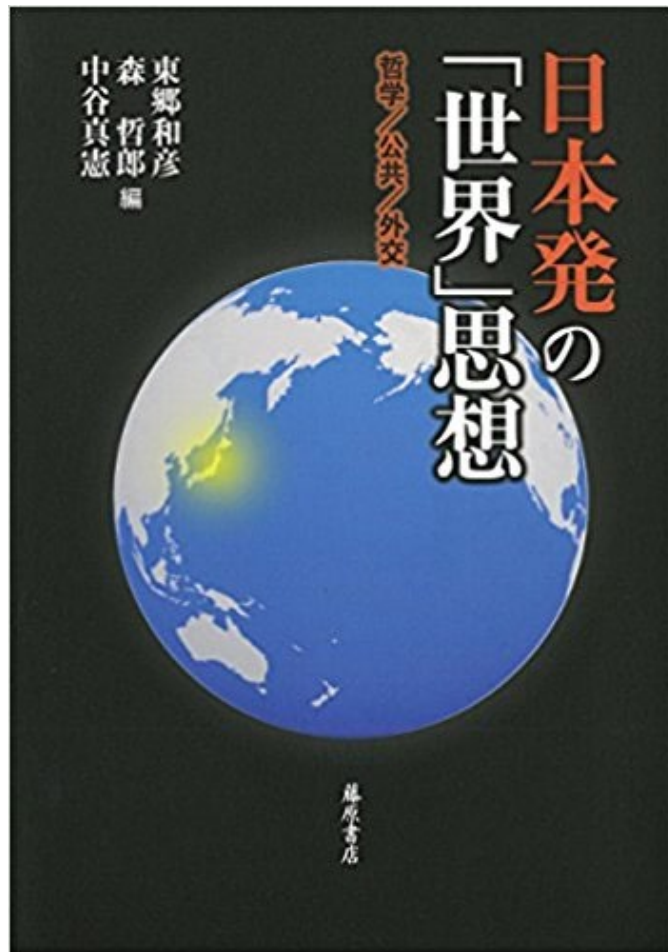
和としての外交

2018年9月26日

東郷和彦

京都産業大学教授
世界問題研究所長

『日本発の「世界」思想』



- 東郷和彦・森哲郎・中谷真憲編著
- 『日本発の「世界」思想 哲学・公共・外交』
- （藤原書店、2017年1月）
- 「根」としての哲学
- 「幹」としての公共
- 「枝」としての外交

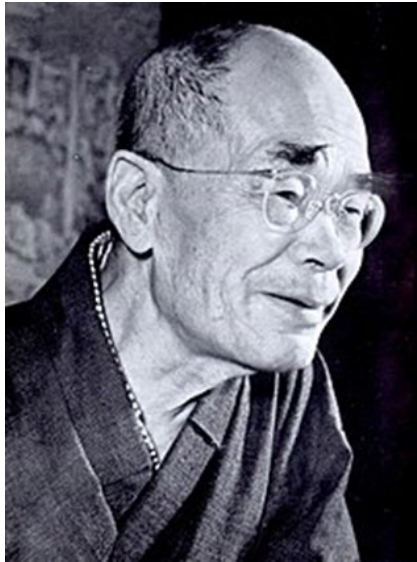
過去の日本哲学の最高峰は？(1)



西田幾多郎、昭和18年2月

- 戦争前の京都学派哲学＝西田幾多郎(哲学者)
- 「世界は自分を含むすべてを包摂する＝絶対」「自分はその中にあってみることができない＝無」＝「絶対無」
- 縦としての日本文化が横としての世界に出会った→ 世界として他の主体を包み込む、世界の中に包み込まれる(1940)

過去の日本哲学の最高峰は？(2)



- 京都学派と同時代の鈴木大拙（宗教家）
- 「靈性的自覚」によって「本当の世界が見える。世界が世界を見る。自覚が世界である」
- 「靈性的日本の建設＝青人草は何物にも拘束せられぬ自由な大地を呼吸しつつ、大地の底に深く根を下ろしつつ、その枝葉を碧空に広げる」(1946)

西田・大拙ともに禪に励んだ 13世紀鎌倉仏教 → 十牛図



第一尋牛



第二見跡



第三見牛



第四得牛



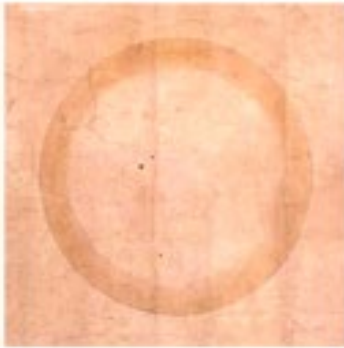
第五牧牛



第六騎牛歸家



第七忘牛存人



第八人牛俱忘



第九返本還源



第十入廬垂手

日本からの文明論的メッセージ

- 他者を一旦あるがままに受け入れる。
- 日本国内において、独特で独創的なものに作り替える(十牛図第八こまが転換点をしめしているように)。
- 開かれた、普遍的でグローバルな形で外部と共有していく。
- ➡「和」の外交にどのようにいかせるか？

日中間の＜和＞への手掛かり(1)



- 横井小楠1809～69
- 熊本藩士・福井藩顧問・幕政改革と公武合体のリーダー
- 『国是三論』(1860)
富国・強兵・士道
- 明治維新の新研究
- 士道は中国古来の「王道政治」
(『書経』)＝瞬帝の徳「聖・神・
武・文」をさす。
- (『日本発』299ページ)

日中間の＜和＞への手掛かり(2)



- 中国での儒家思想の研究
- ①儒教は現体制を補完。
- 甘陽・潘維
- ②儒教の主張で、現体制の問題点を浮き彫りにする。
- 康曉光・姚中秋
- ③儒教・西欧思想共に研究。
- 蔣慶：正当性回復の根拠を「王道政治」に(『春秋公羊伝』)。(『日本発』297～98ページ)